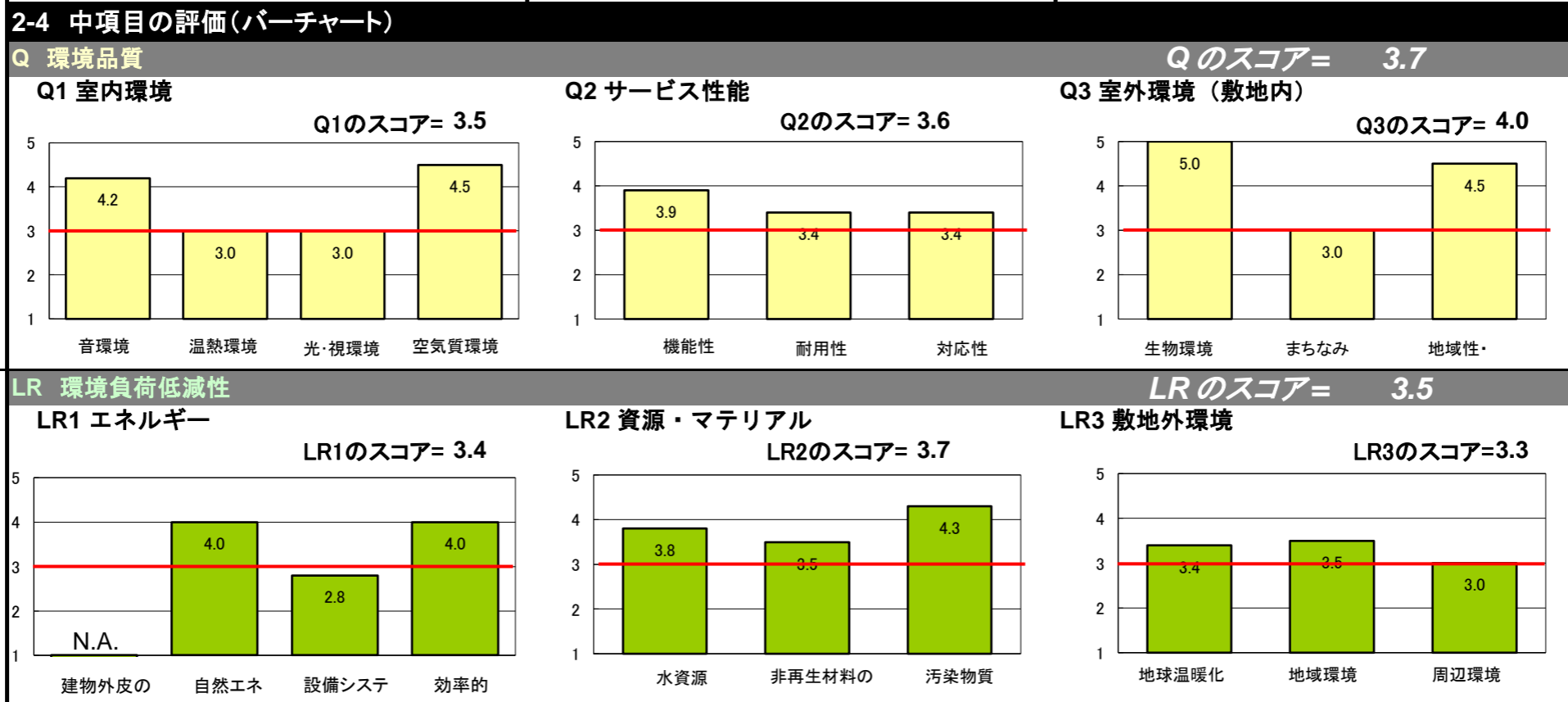
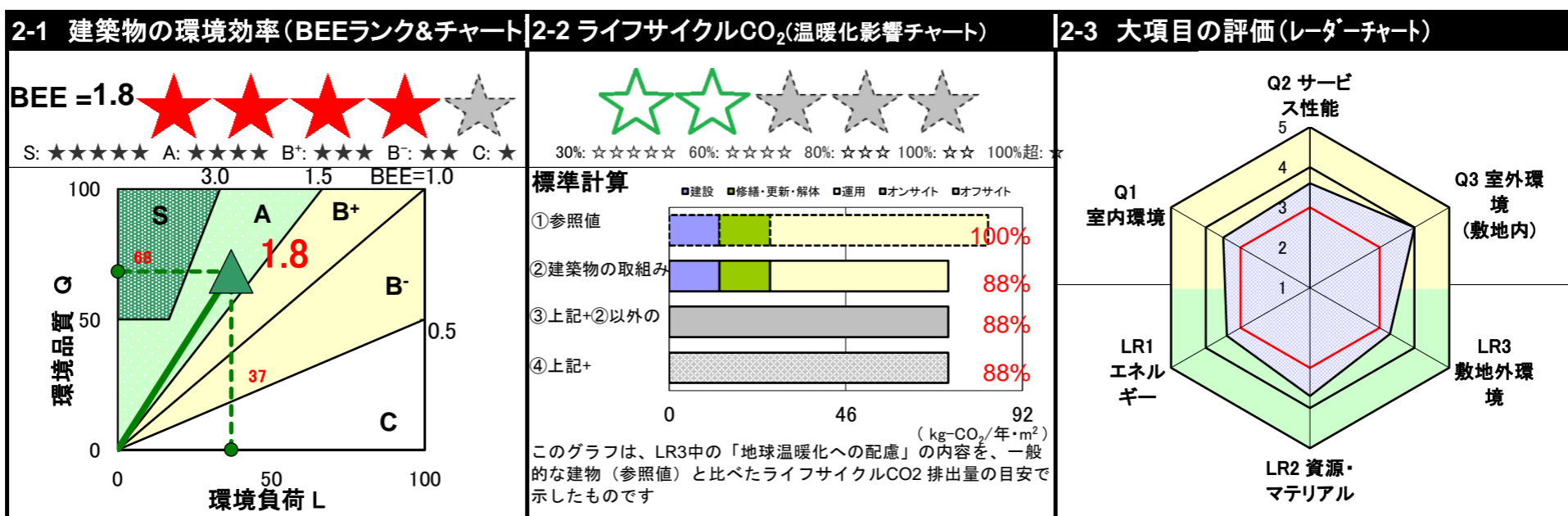


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ジブリの大倉庫	階数	地上2階
建設地	愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533の1 他154筆	構造	SRC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	1,544 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,300 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年10月16日
敷地面積	1,942,250 m ²	作成者	柳橋 春美
建築面積	13,006 m ²	確認日	2020年10月16日
延床面積	2,560 m ²	確認者	大山 政彦



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">5.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">71.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>木材、タイル、石材、瓦等</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										3.7
Q1 室内環境										3.5
1 音環境				0.1	4.2	0.15	-	-	-	4.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1.2 遮音				0.4	5.0	0.40	-	-	-	
1 開口部遮音性能				-	5.0	1.00	-	-	-	
2 界壁遮音性能				-	3.0	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-	-	-	-	
1.3 吸音				-	5.0	0.20	-	-	-	
2 温熱環境				0.3	3.0	0.35	-	-	-	3.0
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	-	-	-	
1 室温				3.0	3.0	0.50	-	3.0	-	
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20	-	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30	-	3.0	-	
3 光・視環境				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-	-	
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御				5.0	3.0	-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	1.00	-	-	-	
4 空気質環境				0.2	4.5	0.25	-	-	-	4.5
4.1 発生源対策				0.5	5.0	0.50	-	-	-	
1 化学汚染物質				3.0	5.0	1.00	-	-	-	
4.2 換気				0.3	3.5	0.30	-	-	-	
1 換気量				3.0	4.0	0.50	-	-	-	
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.3 運用管理				0.2	5.0	0.20	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	5.0	0.50	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	5.0	0.50	-	-	-	
Q2 サービス性能						0.30	-	-	-	3.6
1 機能性				0.4	3.9	0.40	-	-	-	3.9
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	3.0	-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	2.0	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画				3.0	3.0	1.00	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				0.3	5.0	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	3.0	-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	5.0	1.00	-	-	-	
1.3 維持管理				0.3	4.0	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	4.0	0.50	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	4.0	0.50	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				0.3	3.4	0.31	-	-	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.8	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	4.0	0.80	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.3	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.29	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.12	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	5.0	0.10	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	4.0	0.20	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.29	-	-	-	
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				-	-	-	-	-	-	-
1	階高のゆとり			-	3.0	-	-	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ			3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり			5000n/m ² を確保	3.0	4.0	0.45	-	3.0	-	-
3.3 設備の更新性				0.5	3.0	0.55	-	-	-	-
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	-
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	4.0
1	生物環境の保全と創出	独自③	広範囲にわたる緑量の確保	-	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	4.5	0.30	-	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	広範囲にわたる緑量の確保	-	5.0	0.50	-	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		広範囲にわたる緑量の確保、主たる建築設備の高温排熱無し	-	4.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	3.4
1	建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用		広場(大空間)の自然換気システム、クールヒートチューブの採用	3.0	4.0	0.29	-	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化			3.0	2.8	0.43	-	-	-	2.8
4 効率的運用				0.2	4.0	0.29	-	-	-	4.0
集合住宅以外の評価				1.0	4.0	1.00	-	-	-	-
4.1	モニタリング		主要なエネルギー消費内訳・設備システム効率の分析が可能	3.0	5.0	0.50	-	-	-	-
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護				0.1	3.8	0.15	-	-	-	3.8
1.1	節水		節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.6	0.60	-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		雨水利用設備の採用	3.0	4.0	0.67	-	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		増築範囲外は既存躯体を継続使用	-	5.0	0.24	-	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05	-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	LGS工法の採用、自然素材の使用	3.0	5.0	0.24	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない接着剤・塗料を使用	3.0	5.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	-
1	消火剤		不活性ガス消火を使用	-	4.0	0.33	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		使用なし	-	5.0	0.33	-	-	-	-
3	冷媒			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	増築範囲外は既存躯体を継続使用	-	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1	大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	-	5.0	0.25	-	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-	-	-
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	-
3	交通負荷抑制	独自	園内に3カ所の駐車場	-	4.0	0.25	-	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	-
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	-
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	-
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	-
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	1.00	-	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	-	-	-	-	-	-

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				5.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	5.0	0.09	外構緑化:71.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	木材、タイル、石材、瓦等

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 ジブリの大倉庫

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 既存の温水プール棟屋内大空間を美術館にコンバージョンする計画である。スタジオジブリ作品の他、アニメーションに関わる資料を広く保存、保管するとともに、常設・企画展示を行う。季節や天候によらず楽しめる空間を提供する。 意匠は「倉庫」らしさと懐かしさを感じる和洋折衷の建築空間をめざす。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 展示室用途に応じた、適切な遮音性能・吸音性能を確保し、展示物観賞にふさわしい室内環境を確保する。 また、化学汚染物質を原則使用せず、安全・安心な室内空気質環境を確保する。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 屋内大空間を活かした、外部空間的な設えに施した魅力ある空間を提供する。 建屋内増築を考慮した、維持管理が行いやすい設計に努めている。 耐震性については、重要度係数I=1.25を考慮し、必用保有水平耐力1.25倍を確保し、安全・安心な設計としている。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地は愛・地球博記念公園であり、言うまでもなく、広い範囲を豊かな緑で覆われており、来園者へ居心地の良さを提供する。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 自然換気システム、クールヒートチューブを採用し、自然エネルギーを最大限活用した設備計画としている。 あわせて、エネルギー消費量・設備システムの効率分析と評価も可能な中央監視装置とし、運用時のモニタリングにも配慮している。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 増築(改修)範囲以外の既存躯体を継続使用し、LGS工法の採用・自然素材使用による部材の再利用可能性能向上を図り、非再生資源の使用料削減に努めている。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 混雑緩和のため、園内には北駐車場・西駐車場・南駐車場の計3カ所の駐車場が設置されている。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>